

# 百力日

ひやかかにち

高校野球のテレビ中継で、大活躍した選手の両親がインタビューを受け「息子のことより、チームが勝ったほうが嬉しい」と語っていましたが、それを見ていた同じような経験をもつお父さんが「立派だなあ」と皮肉まじりの感想を洩らしました。自分の場合、とてもチーム本位どころか、自分の子供の働きばかりが気になったというのです。むしろ、チームの勝敗より、自分の子がいいところを見せてくれたらいいというのが、本音だったと告白しました。もちろん、どちらも本心にはちがいをなく、どちらも、

「親心」をいいあらわして  
共感をおぼえずにはおれま  
せん。しかし、わが子だけ

しか頭にな  
かったお父  
さんを「立

## 拯濟無辺



派だ」とうならせたお父さんにしても、まさか相手チームを声援する  
という気には、とうていありません。それが人情というものでしょう。  
そうした人情の世界での限界を思うにつけ、み仏の誓願の尊さ、た  
のもしさを仰がずにはおれません。み仏の拯濟（お救い）は、ほとり  
なく（無辺）およぶと宗祖・親鸞聖人はよろこばれました。ここまで、  
という限界はなく、むしろ罪深いわれら、心のよごれきったわれわれ  
（極濁悪）を、この上もなくかなしんでくださって、救わずにはおれ  
ないという、み仏の誓願だからです。